

## 7. 補助事業に係る具体的な成果

本学の教員 17 名、事務職 2 名、学生 3 年生 74 名、4 年生 3 名、博士前期課程 11 名、博士後期課程 3 名および一般申込みの医療、保健、福祉、教育関係者 176 名、計 286 名の参加があった。

会場から参加者による活発な質疑があり、軽度発達障害に対する各分野の関心の高さが示された。

一般参加者アンケートは 122 名から回収された（回収率 68.5%）。参加者のメインテーマへの興味は非常に高く、いずれの講演内容についても分かりやすいという評価であった。

「明日からの保育に役立つ講演だった」、「講演の内容が具体的でわかりやすく、頭の整理ができた」と現場に役立つというテーマに掲げた内容であったと思われる。また、「行政として子どもの生活を長期的に支えるシステムの構築を目標にしたいと感じた」、「実際に乳幼児にかかわる保育園・幼稚園の職員の研修や伝達システムが重要であると感じた」という感想があり、地域連携の必要性は理解されたと思われる。

公開講演会を通して、発達障害児支援に関する情報を提供するという目的は達成できたと考えられる。

### 1) 一般参加者アンケート結果

#### (1) 参加者の所属および職業

所属では、保育所からの参加が最も多かった。また、職業は保育士が最も多く、ついで教諭、保健師、看護師（保育所）だった。

所属		
	n	%
医療機関	10	8.3
保健福祉センター	16	13.2
家庭児童相談室	4	3.3
保育所	51	42.1
教育委員会	4	3.3
小学校	9	7.4
中学校	4	3.3
高校	3	2.5
その他	20	16.5
合計	121	100.0

その他：養護学校、知的障害児通園施設、行政、子育て支援センター、大学院、社会福祉協議会、親

職業		
	n	%
医師	5	4.2
保健師	16	13.6
助産師	2	1.7
看護師（医療機関）	7	5.9
看護師（保育所）	10	8.5
教諭	17	14.4
養護教諭	5	4.2
保育士	38	32.2
コーディネーター	3	2.5
ケースワーカー	2	1.7
臨床心理士	2	1.7
一般	1	0.8
その他	10	8.5
合計	118	100.0

その他：社会福祉士、相談員、園長、カウンセラー、学生

#### (2) プログラムの編成、時間配分、メインテーマへの興味について

プログラムの編成は約 9 割が非常に良い～良いと回答した。また、7 割以上がメインテーマにかなり興味があり、興味がないと回答したものはなかった。

プログラムの構成・時間配分		
	n	%
非常に良い	29	26.6
良い	72	66.1
普通	8	7.3
合計	109	100.0

メインテーマへの興味		
	n	%
かなりあった	91	75.2
あった	30	24.8
あまりなかった	0	0
なかった	0	0
合計	121	100.0

#### (3) 講演について

参加者の 8～9 割が講演の時間はちょうど良く、内容は分かりやすかったと回答した。

##### ① 基調講演「軽度発達障害について」について

基調講演の時間		
	n	%
長い	1	0.9
ちょうど良い	96	82.1
短い	20	17.1
合計	117	100.0

基調講演の内容		
	n	%
わかりやすかった	106	99.1
難しかった	1	0.9
合計	107	100.0

②講演1「ADHDの子どもを持つ親へのペアレントトレーニングの実際」について

講演1の時間		
	n	%
長い	1	0.8
ちょうど良い	89	73.0
短い	32	26.2
合計	122	100.0

講演1の内容		
	n	%
わかりやすかった	111	99.1
難しかった	1	0.9
合計	112	100.0

③講演2「軽度発達障害と教育との連携」について

講演2の時間		
	n	%
長い	6	5.1
ちょうど良い	100	85.5
短い	11	9.4
合計	117	100.0

講演2の内容		
	n	%
わかりやすかった	100	92.6
難しかった	8	7.4
合計	108	100.0

(4) 今後取り上げてほしいテーマ（自由記載）

- ・総合相談室のあり方
- ・軽度発達障害児の事例（ビデオなど）
- ・学校、行政、福祉等の連携の具体的実践例と今後の方向性、実際に大阪にある連携機関
- ・ADHDなど軽度発達障害児への具体的な関わり方（教育、保育）の実践例
- ・（ADHD以外の）自閉症、アスペルガー、自閉症スペクトラム（ASD）等について
- ・ニードの低い母親に対する関わり
- ・言語発達など子どもの（正常な）発達、自閉症の生理学的な病因
- ・ペアトレ、SSTなどの実践講座
- ・小グループでの意見交換や支援道具の紹介
- ・PDDの子どもたちのメンタルヘルス
- ・早期発見につながる子どもの見方、問診項目（乳幼児健診などの場で）
- ・通常学級在籍でLD、ADHDの診断を受けていない子どもと保護者への対応
- ・教育関係者向けの講座（スーパーバイザーがほしい）
- ・学校卒業後（高校、大学、成人期）の支援について
- ・医療ケアの実践（吸引、吸入、救急処置など）

(5) 意見・感想（自由記載）

- ・講演が具体的で分かりやすかった、頭の整理ができた。このような機会がまた欲しい
- ・重要だがなかなかできていない連携の話が聞けてよかった
- ・保育所の保育士、看護師の相談窓口がほしい
- ・行政として子どもの生活を長期的に支えるシステムの構築を目標にしたいと感じた
- ・明日からの保育に役立つ講演だった
- ・診断後のフォローができていないのが現実。受け皿の整備の必要性を改めて感じた
- ・実際に学校、園に来て助言指導していただきたい
- ・実際に乳幼児期にかかわる保育園・幼稚園の職員の研修や伝達システムが重要と感じた
- ・保護者との関わりに大変苦勞している（精神疾患を持っている親など）
- ・大阪でも浜松のような取組みをして欲しい
- ・受診を勧めても待ちが長いため、阪大以外にも身近な医療機関を紹介して欲しい



平成19年3月4日  
現代GP公開講演会

「現場に役立つ  
発達障害支援の実際」

基調講演「軽度発達障害について」



一般参加者の様子（10階ホール）



学生参加の様子（講義室）